

I 実践

1 研究テーマ

自他のよさを認め合い、思いやりと感謝の心をもって活動する児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校の教育目標は「自分を見つめ自分と対話し、目標に向かって進んで挑戦する、たくましい久慈っ子の育成」であり、目指す児童像は、「自分を律し思いやりのある子」「自ら考え学び続ける子」「健康で元気いっぱいの子」である。これらを受け、本校の人権教育の目標を「自他を大切にし、思いやりの心と助け合いの心をもって活動する子供の育成」「自ら進んで学習し、物事についての正しい判断をし行動できる子供の育成」「互いに認め合い、助け合って人のために尽くすことができる子供の育成」としている。本校の児童は、明るく素直で思いやりの心をもって生活することができている。しかし、自分勝手な行動や相手を思いやることのできない言動から友達を傷つけてしまう児童もいる。そこで、様々な人との関わりや体験活動を通して、一人一人のよさに気づき、自他のよさを認め合い、思いやりの心と感謝の心をもって活動する児童の育成を目指し、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 教育活動全体を通した人権教育の推進
- イ 人権意識を育む体験活動

2 実践内容

(1) 教育活動全体を通した人権教育の推進

ア 中学校・高校やPTAと連携したあいさつ運動

本校では、毎朝けやき委員会の児童と教職員が昇降口、正門等に立ち、あいさつ運動をしている。また、毎学期マナーアップ週間を取り入れ、各学年の児童が順番にあいさつ運動に参加している。あいさつ運動は、あいさつの大切さを知り、心のこもった気持ちのよいあいさつができるようにするとともに、心を通わせ好ましい人間関係を育むことをねらいとして行っている。さらに、近隣の中学校・高校の生徒やPTAの方々と連携を取りながらあいさつ運動を展開しているため、たくさんの人々と関わり合って生活し、互いに支え合っていることに気付くとともに、あいさつすることのよさや大切さを実感していると考ええる。



イ 校内人権学習週間の実施

学期ごとに校内人権学習週間を設け、思いやりの心と感謝の心を基礎とした人権教育の精神の涵養を図った。

1学期は、視聴覚教材を使った人権学習を実施した。視聴前と視聴後に話し合いの時間を設け、ワークシートによる振り返りを行った。2学期は、人権メッセージや標語、ポスター、習字などの人権作品への応募を積極的に呼びかけた。特に、人権メッセージは全校児童で取り組み、夏休みに家庭に持ち帰って家族と一緒に考えることで、保護者への啓発も図った。また、校内放送で代表作品を読み上げたり、各クラスの廊下に人権メッセージを掲示したりすることで、友達の考えや思いを共有し、人権問題に対する考えを深めることができた。



ウ 道徳教育の充実

各学年とも目指す児童像に向けて、道徳の時間と他教科・領域との関連を図って授業実践を行ってきた。本年度も「こころのけやき」を各学級に掲示し、学習した教材名と価値、児童の振り返りカードを蓄積した。また、低・中学年では「ふわふわ言葉やちくちく言葉」、「なかよしポスト」の実施、高学年ではソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、友達への言葉かけや接し方などのロールプレイを実施した。さらに、道徳教育の題材を通して、人権に関する様々な課題について学習し、人権教育への理解を推進した。

エ あったかハートの木の設置

毎日の生活の中で、友達に言われてうれしかったことや、友達にしてもらってうれしかった感謝の気持ちを、ハートのカードに毎日日直が書いてあったかハートの木に貼った。お昼の校内放送で紹介することによりだれもが温かな気持ちになり、自他のよさを認める機会となった。全校児童がハートのカードに記入できた。

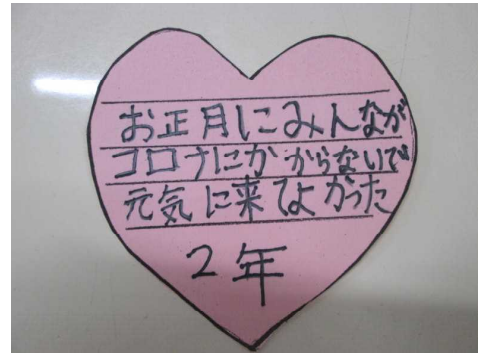


☆ 自分のよいところ

(例) 毎日あいさつをがんばっています。

☆ 友達のよいところ

(例) ○○さんは、わたしが～をわすれたときに～をかしてくれて、やさしいです。



オ 職員研修の充実

職員間の人権意識の向上を図るために、人権学習会で児童が視聴するDVDを、事前に職員が視聴して、各ブロックごとに発達段階に応じたワークシート作りや、授業の流れについて話し合った。授業の工夫・改善につながった。

(2) 人権意識を育む体験活動

ア なかよし学級活動（異学年の交流）

○ 外遊び

○ 近隣の高校に夏の高校野球応援と、毎日立哨していただいている感謝の気持ちを込めての千羽鶴を作成しプレゼントした。

○ 異学年の交流を設けることで、互いを思いやることができるとともに、頼りにされたり必要とされたりすることで自己有用感を感じることができた。

イ 命の学習

低学年は一人一鉢栽培、各学級で金魚やメダカなども飼育している。植物の栽培や生き物の飼育を通して、命を大切にすると同時に、他者への感謝の心を育てることにもつながっている。1年生の道徳の授業では、保護者に手紙を書いてもらい、生まれたときの様子や成長の喜びを知ったりすることで、自分の命や友達の命について考えを深めることができた。

3 成果

様々な活動を通して、児童はお互いを認めたり、助けたり、支え合ったりすることの大切さに気付く、それを実践することの意義を感じることができた。様々な人との関わりの中で、人と触れ合う楽しさや難しさに気付くとともに、自己肯定感や自己有用感を高めることができた。

II 今後の課題

人権教育は、学校の教育活動全体で行われていくものであるが学習したことを日常生活や家庭・地域でも実践できるようにしていくことが大切である。一度だけの活動で終わることなく、繰り返し継続して取り組むことで、互いの信頼関係を深めることになり、思いやりの心や感謝の心が育っていくと考える。今後も学校での活動を家庭や地域に発信し、連携していくことで人権教育を充実させていきたい。また、全職員で人権教育に関して理解と認識を高められるように、職員研修の充実が大切である。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定していた交流学习や体験学習が実施できなく、毎日児童は大変残念な思いをしていた。今後も、状態を見ながら今できる活動を計画・実施していきたい。